



2022.11.27

ニリンソウ自生地 保護活動情報

赤塚公園ニリンソウを守る会

akatsukanironso@gmail.com

都立赤塚公園
サービスセンター
03-3938-5715

編集責任：運営サポーター／木村



Since 1982 ニリンソウ保護活動 40周年

赤塚公園ニリンソウを守る会 活動予定

<12月> 12/18(日) ※雨天予備日 12/25(日)

10:00 大門地区観察台集合

<2023年1~2月の日程>

1/15(日) = 八丁目の林 10:00 ため池公園梅林下集合

※雨天予備日 1/22

2/12(日) = 大門自生地 10:00 大門地区観察台集合

※雨天予備日 2/19

★ニリンソウを守る会は大門地区のニリンソウ自生地などの手入れ活動を行っています。参加者個々人の自主活動の集まりで、誰でも参加できます。

※問合せ：左記赤塚公園サービスセンターへ

たくさんの人々の参加で 大門地区の手入れ進行



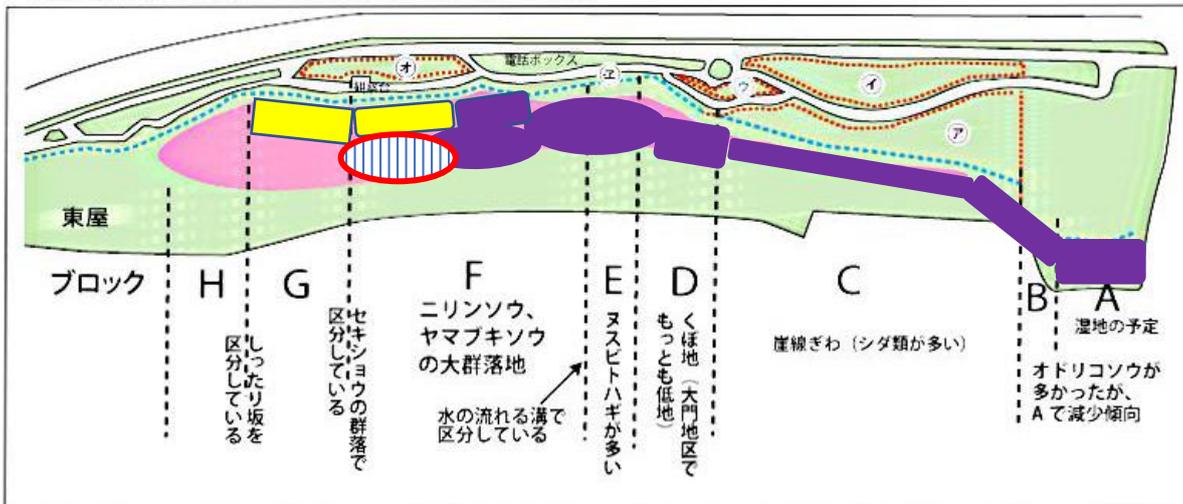
11/27 は木枯らしではないかと思われ冷たい風が吹き抜ける日でした、中央地区サービスセンター前のイチヨウ並木は片側はきれいな黄葉を見せていますが、片側はすっか



り葉が落ち、噴水周りのカツラの木も葉を落として冬の気配。でも、植え込みの下の日だまりでは早くも春の花ホトケノザ（右の写真）が咲き始めていて、寒暖入り混じる不思議なこの頃です。

さて、大門地区ニリンソウ自生地の手入れ活動は、この日も板橋区地域入門講座の体験者を迎えて、全18名で楽しくにぎやかに行いました。下のマップの赤円縦線部分がこの日の作業エリアで

したが、予定通りに進行しました。



* 紫色塗りつぶし部分は作業終了、黄色部分はサービスセンター担当部分

手入れ(草刈り)で気をつかったこと、マーキングした植物

大門自生地の前を通ると、林の中に支柱に赤いビニールひもを結んだ目印があちこちに見られます。これは、草刈りに当たって、残す(刈らない)植物や特に注意を払って行うべき場所をマークしたものです。

刈り取らないでそのまま残している種は、11/27の作業では、これから花を咲かすイヌシヨウマや越年草のハナウド、シダ植物で珍しいオオハナワラビ、湿地に生えるセキシヨウなどですが、

「ニリンソウの保護活動」はニリンソウという種だけを残すことが目的ではなく、ここに生きているたくさんの植物

が生きやすい条件をつくることですので、ニリンソウ以外の植物はどうでも良いという訳ではないのです。このような配慮をしながらの手入れを続けることによって、イヌシヨウマもハナウドもかなり増えてきました。右上写真はハナウドのマーキング。ハナウドは越年草(人間の暦の12月と1月をまたいで生きる1年草)なので、今頃に葉を出している株を折ったり切ったりしてしまうと、それでもう死んでしまいます。だから、この草を残そうと思ったら刈り取ってしまうのは禁物なのです。なお、マーキングの支柱と紐は全作業が終了した後に外します。



草刈り前と後では、こんなに違います



左上の写真は作業に取り掛かった時点で、作業者の周りにはまだ緑の草がいっぱい生えています。右上の写真は作業着手後しばらくたってから、逆方向から同じ地点を撮影したのですが、かなりきれいになってきました。左下写真のように斜面での作業は必ず下の方から昇るように手がけていきますが、草刈りが着々と進行している様子が見て取れます。草刈りによって春の野草が芽を出しやすい条件が作られていきます。